地域と学校が協働し、学校支援の充実と地域貢献が一層進んだ

巨瀬学園CS推進チーム

活動の目的

学校運営協議会で、学校・保護者・地域住民の代表が熟議を重ねることで、「社会に開かれた教育課程」が作成され、それを実施することにより、学校力の向上と地域創生につながる。学校を核として地域とともにある学校になり、巨瀬地域総出で巨瀬地域を盛り上げる社会を目指している。全ては、巨瀬の宝である子供たちのために、学校と地域が協働して子供たちの教育に当たるためである。そのためのコミュニティ・スクール（以下CSとする。）であり、よりよいCSの在り方を探っていく。

活動の内容及び経過

年4回の学校運営協議会及び研修会を通して、学校運営協議会委員と教職員が、兵庫教育大学大学院准教授諏訪氏の助言・支援を受け、課題や成果を明らかにしながら、巨瀬地区にあったCSの充実を図った。4回の内容は次のとおりである。

第1回目　子供を中心に据えた活動の振り返りやCS委員の増員について
第2回目　予算要求、人事について
第3回目　年度の教育課程について
第4回目　教育課程の承認。

また、中学校区で2回の合同研修をもった。1回目は、7月に参加型研修で目指す子供像について協議した。小学校区での地域住民・教職員グループに中学校教員が加わる形態にした。中学校区におけるCS設置の基礎となる考え方が共有できた。2回目は、8月開催の文科省主催CSフォーラムに、CS委員、PTA、教職員等が参加した。先進的な取組を生かすだけでなく、中学校区での方向性を協議できた。また、中学校区だけでなく、市内の他校とも協力体制を構築できつつある。

活動の成果・効果

○　学校支援の意識と地域貢献に対する児童の意識の高まり

巨瀬まちづくり推進委員会の中に学園支援部が設置され、個々の支援から組織での支援の仕組みに変わったことで地域住民の学校支援への意識が高まった。学校支援部の地域住民が、PTA主催の活動へ参加、参観日に授業参観する等した。一方、児童の意識も変化が芽生えた。総合的な学習の時間や委員会活動の中で、巨瀬をよくする取組がテーマになると、今までは学校内のことに児童の思いはとどまっていたが、今年度は、児童の中から、「地域の集会所にプランターを置きたい。花で地域の方を元気づけたい。」「二分の一成人式に地域の方を招きたい。」等、児童の自発的な思いや行動がみられた。

○　CSに関する理解の深まり

兵庫教育大学大学院准教授　諏訪氏を招いた研修を年6回実施した。会議で熟議の様子を観察し助言をいただいた。また、文部科学省主催のCSフォーラム（広島府中大会）へ参加し合同研修した。研修の重要性を確信した。CS委員と教職員の合同研修は、互いを知ることで協力体制が構築され、児童へのよりよい教育につながった。

○　市内学校園でのCS設置への協力

中学校区での設置を目指し、他校園へ協力した。他校の研修へ参加し本CSの経緯等を説明したり、オブザーバーとして参加し意見を求められたりした。この流れから、市内の他の中学校区での研修へも協力した。元々、本校が市内のCSモデル校に指定されており、昨年度の研究発表以降も現実的な協力をしてきた。市内の協力した小学校は本年度CSを設置した。

今後の課題と問題点

○本CSの充実を目指して研修を継続する必要がある。
○来年度の中学校のCSの設置に向けて協力していく。
○行政から市全体としての目指す子供像はある。その中でも、課題である児童の社会形成能力の向上に焦点を当て、CSと連携して取り組みたい。

●代表者：西村肇　●所在地：高梁市巨瀬町
●TEL：0866-25-0004
●E-MAIL：kosesho@sc.city.takahashi.okayama.jp
●設立年：2017年　●メンバー数：18名